

<サクラ、さくら、桜>3月卒業の頃のサクラ、4月入学の頃に咲くサクラ、学生生活に少し馴染んでくる頃のサクラなど2ヶ月近くいろんなサクラが咲き目を楽しませてくれます。調べてみるとサクラの仲間は園芸種を含めて600種以上あるとのこと。花の形や色、ガクの形、葉の形がそれぞれ5種ずつ仮にあるとすれば5の4乗=625、「あり得るな」と何となく納得します。でも私たちには10種も区別できるかどうか。ともあれソメイヨシノの散ったあとに咲いている花の形の違うサクラを3つ載せました。まず一つは“ヤマザクラ”と札が掛かっているのですが…。2つ目は沢山の小さなサクラランボを付けるもの。そして3つ目は“花も実もある”ミザクラの代表“佐藤錦”です。

(佐藤錦) ミザクラの1品種ナポレオンと黄玉(きだま)の交配により生み出された日本の代表的なサクラランボ。昭和の初めに交配育成に成功した山形県東根の営農家佐藤栄助の名と「砂糖のように甘い」を掛け合わせた名前。

<競演>この季節は数日で木々の姿がどんどん変わっていきます。ビオトープではまず目に飛び込んでくるのがマルバヤナギの葉と花の清々しい緑です。その側にはニシキギ



<マルバヤナギ:上とニシキギ:下>



の特徴ある姿があり、根元には年ごとに株を大きくしているエビネが咲いています。

<よく見ないと>あれよという間にイチョウの並木も枝の色に葉の緑が勝ってきました。5月には緑に覆われ秋口に沢山のギンナンを落とし次いで黄くなった葉を散らす姿を毎年見てきています。ところが「ギンナンの始まりや如何に？」にはまるで無頓着に過ごしてきました。新芽の頃からようやく気に掛けていて「こんな雄花、雌花が咲くのだ」と分かったところです。もう一つ、赤い実と年中青々とした葉に気を取られて見過ごすのがアオキ



<イチョウの雄花:上と雌花:下>

の花(左写真)です。この木は雑木林の縁辺に沢山生えていて今が新芽と花の時期です。花は1cmにも満たないのですが濃い赤紫の十字でよく見ると綺麗なものです。(文と写真:松本正勝)